

**第1 趣旨**

この計画は、道史の編さんを着実に進めるため、「道史編さん大綱」（平成30年3月29日知事決定）に基づき、刊行の内容や方針等を具体的に明らかにするものである。

**第2 刊行の内容**

## 1 誌名と構成、刊行年度

現代史	誌名「北海道現代史」 資料編1（政治・行政） 2024年度 資料編2（産業・経済） 2022年度 資料編3（社会・教育・文化） 2023年度 通史編1（終戦～高度経済成長期） 2025年度 通史編2（安定成長期～低成長期） 2026年度
概説	誌名「北海道史クロニクル」 上巻（考古～近世） 2027年度 下巻（近現代） 2027年度
年表	誌名「北海道史年表」 2027年度

## 2 形態、刊行部数

各巻頁見込み		形態	刊行部数
現代史	資料編 資料+解説 1,000頁 口絵・凡例・目次等 50頁 計 1,050頁	A5判 上製本	無償 1,500冊 有償 300冊
	通史編 本文 980頁 口絵・目次・索引等 70頁 計 1,050頁		無償 1,500冊 有償 500冊
概説	各 400頁	A5判 並製本	無償 1,700冊 有償 5,000冊
年表	1,000頁	A5判 並製本	無償 1,500冊 有償 5,000冊

**第3 編さんの方針**

## 1 現代史

- (1) 資料編における掲載資料の選択や、通史編における叙述では、公平で客観的かつ学術的に正確であることに留意する。
- (2) 様々な事象の中から、北海道の特徴や独自性を表すものを、意識的に取り上げる。
- (3) 文献資料を中心に、映像・音声資料や関係者からの聞き取りなど、道内外にわたり広く多彩な調査収集に努める。
- (4) 対象時期は第二次世界大戦後から2003年まで（堀道政期まで）とし、資料編への掲載

資料は基本的にこの範囲にとどめる。ただし、戦前・戦中からの連続性なしには説明が困難な事象や、2003年以降の展開にまで一連の流れとして言及すべき事象は、通史編の叙述の中で補足する。

- (5) 資料編には、各資料ごとに内容や取り上げる意義についての解説を付し、一般道民が興味深く読めるよう配慮する。
- (6) 資料編の掲載資料は、通史編の叙述の論拠や例示になることから、資料編・通史編双方のつながりがわかるように工夫する。
- (7) アイヌ史に関わる部分は、単一の項目に収めるのではなく、各巻各分野の中で過不足なく適切に配置する。
- (8) 貴重な資料を発掘し後世に残すことの意義を認識し、保存に適した収集及び整理を行う。道史編さんで収集した資料は、事業終了後は道立文書館に移管し活用する。

## 2 概説

- (1) 「新北海道史」以降の研究成果を反映させ、考古から現代に至る北海道史を、新たな視点でわかりやすく叙述する。
- (2) 記述中心の通史型とするが、ビジュアル的要素も取り入れ、一般道民が親しみやすい構成とする。
- (3) 道民が書店等で手軽に購入できるものとする。

## 3 年表

- (1) 「新北海道史年表」を底本とし、刊行直近年までを収録する。
- (2) 「新北海道史年表」の記載形式を踏襲し、各事項には出典を明示する。
- (3) 道民が書店等で手軽に購入できるものとする。

## 第4 道民からの情報収集・道民への情報提供

- (1) 資料収集や資料情報の提供には、広く道民の協力を求める。
- (2) 編さんの進捗状況や調査研究の成果は、ホームページで逐次公開する。
- (3) 現代史（資料編・通史編）については、刊行後、著作権者及び原本所蔵者から許諾が得られなかった資料部分を除き、デジタルデータによるインターネット公開を行う。その他の刊本及び収集した資料のデジタル公開については、別途可能な範囲を検討する。
- (4) 各巻刊行直後には、委員による講演会を実施し、道史に対する興味関心を深める。